39

河野芸隣斎「鼇頭内経序」について

寺川　華奈
日本鍼灸研究会／花園鍼灸院

河野芸隣斎著「鼇頭内経序」は，慶応大学所蔵（函架番号31/24）『霊枢』（いわゆる『類経』本．9巻6冊）の第1冊冒頭に付された，『素問』『霊枢』の序文の解説である．著者の河野芸隣斎については未詳であるが，小曽戸洋はその論文「日本における『内経』受容の経緯」（日本経絡学会創立二十周年記念『素問・霊枢』所収）の中で「幕府医官で法印の位まで昇った河野松庵（通房，1654～1718）」の可能性について言及している．

本書については，従来，写本しか知られていなかった．すなわち東京大学附属図書館鶚軒文庫所蔵の『素問札記』（不分巻1冊．書題は書外題による．『東京大学総合図書館古医書目録』や『国書総目録』では「素問三序考」として著録するも書中にその名は見えない．『黄帝内経要語集註』〔オリエント出版社，1990年〕第5冊影印）がそれである．『素問札記』は「鼇頭内経序」と異なり，序文と鼇頭注の形式ではなく，箇条書きで，序文の語句を挙げて，その解説を述べる形式を採っている．「鼇頭内経序」と比較すると，『素問札記』は「鼇頭内経序」の鼇頭注部分を抜き出し，末尾に跋文と出版社名を除く刊記を加えて成ったものであることが判明する．ただし，以下に述べるように，僅かであるが「鼇頭内経序」に含まれない序文も見られることが注目される．

慶応大学所蔵本『霊枢』の第1冊は『霊枢』の第九篇までが含まれており，題簽は「霊枢　一」であるが，書題の下に「素霊序」と手書きされている．「鼇頭内経序」は全20葉からなる．第1葉表は扉で「（鼇頭）内経序」とあり，扉の裏から第10葉までは王冰注，匡郭のみの第11葉表を挟んで，第11葉裏から第17葉裏までは宋臣注，第18葉から第20葉表までは『霊枢』の史崧叙の各序文とその鼇頭注となっている．第20葉裏に著者の跋「右三序鼇頭，雖難免雕虫篆刻之譏，粗表章典故，改竄和訓，而欲便于童蒙．未得考證者，姑待博雅之士云」，ならびに「大和屋善兵衛／敦賀屋三右衛門開版」「元禄五（壬申）歳正月中浣」の刊記がある．刊記にある元禄五年（1692）が本書の成立年と見なされるが，最初から『類経』本『霊枢』の冒頭に置かれる目的で印刷されたものかどうかは不明である．なお管見によれば，『類経』本『素問』『霊枢』は概ね経文のみで注や上記の三序などは収録されていないようである．また「鼇頭内経序」を冒頭に置く例も，今のところ慶応大学所蔵本以外に例を見ない．

「鼇頭内経序」の王冰注に対する鼇頭注は83条であるが，うち9条は王冰注に附された宋臣注へのものである．また宋臣序では47条，史崧序では19条の鼇頭注が見られる．ちなみに『素問札記』の宋臣序への注は，「鼇頭内経序」に見られない「蒼周」に関する1条を加えた48条となっている．この「蒼周」の注は「元簡按趙岐「孟子題辞」云，遭蒼姫之訖録，値炎劉之未奮」というもので，ここに見える「元簡」が，有名な多紀元簡か否かはなんとも言えないものの，山田業広の『素問次注集疏』の宋臣序に対する注に同様に「孟子題辞」からの引用があり，『素問札記』に「岡氏棄蔵」や「山田業精之印」の印記があることなどから，転写本『素問札記』の成立は1700年代後半以降となる可能性もある．

引用される書物は，『漢書』や『史記』といった史書，『詩』『書』『易』『春秋』『論語』といった経書，思想書である『荘子』，医学関係では『傷寒論』『難経』である．もう一つは主に明代の医書や，馬玄台，呉崑，張介賓，王九達といった明代諸家の注解である．篠原孝市は『素問札記』の影印に際して，その解説の中で，江戸考証学派が出現する前の著作でありながら，「注解の方法において，考証学派の時代の著作とみてもそれほど奇異な感じがしないほどに高い水準を持っている」と評価している．